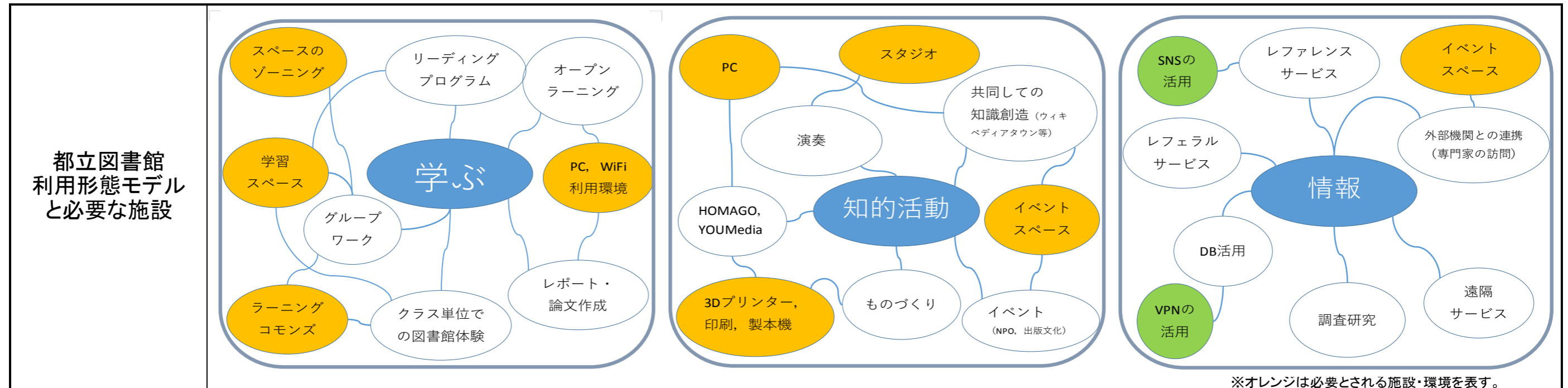


学習、利用形態について（第1回学習・利用形態部会での議論）

<p>掘り起こしたい利用者層</p>	<p>普段図書館を使わない。 (知的活動に関心あり)</p>	<p>時間に余裕があり、学びに強い意欲がある。</p>	<p>調べ方・考える力をこれから習得する。</p>	<p>多忙・移動が難しいが、ビジネスレベルでの調べものが必要</p>	<p>大学レベル以上の調査・研究環境を求めている。</p>	
<p>都立図書館利用の障壁(現実)</p>	<p>都立図書館を知らない 「楽しさ」を感じない</p>	<p>敷居が高いと感じる (蔵書構成・貸出不可・雰囲気等)</p>	<p>子供がいるから行きづらい 距離的に遠い</p>	<p>調べ方を知らない 調べ方だけでなく、他にも調べ方があることを知らない</p>	<p>レファレンスを知らない 忙しくて時間がない 遠隔利用メニューが不十分</p>	<p>開館時間内に利用できない</p>

障壁をクリアできれば、下記のような利用形態につながっていくのではないかと？



<p>人数の視点</p>	<p>← グループ利用 → ← 個人利用 →</p>
<p>音の視点</p>	<p>← にぎわい・会話OK → ← 静謐 →</p>
<p>来館の視点</p>	<p>← 来館 → ← 出前イベント・講師派遣 → ← 遠隔 →</p>
<p>ツールの視点</p>	<p>← デジタルツール・アナログツール →</p>
<p>棲み分けの視点</p>	<p>← 国会図書館との差別化 → ← 区市町村立図書館との差別化 →</p>